

平成24年(2012)

2月1日(水)

発行所 田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区
北浜2-6-18

新ワクチン新聞

平成24年創刊号

創刊号のトピックス

- ポリオワクチン「生」と「不活化」
- 麻しん(はしか)・風しんの予防接種
- みずぼうそう流行は冬から夏
- みずぼうそうと予防接種

ポリオワクチン「生」と「不活化」

ポリオは「小児麻痺」とも呼ばれ、ポリオウイルスが脊髄に入り込み、手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまう病気です。確実な治療法はなく、ワクチン接種が唯一の予防法です。

今のポリオワクチンは、ウイルスの病原性を弱めて作った「生」ワクチンです。現在、「不活化」ポリオワクチンの開発が進められていますが、発売までには、かなりの時間がかかる見込みです。

平成23年春の調査では、全国のポリオワクチン接種率は、例年より18%も低下していました。厚生労働省は「ポリオワクチンを接種せずに様子を見る人が増える」と危険に生ワクチンの接種を呼びかけています。また、日本小児科学会は、ワクチン接種率を高く保つ必要があります。不活化ワクチン導入までは生ワクチン接種を継続するべきであるとしています。

かかるまえにできること
ごへまれに、生ポリオワクチン接種の後、手足などに麻痺を起す場合があります。最近では、ワクチンを接種した人では、10年間で15例(100万人の接種当たり約1.4人に相当)、周囲の人では、5年間で1例(いわゆる「2次感染」)が認定されています。

麻しん(はしか)・風しんの予防接種

麻しん・風しんの定期予防接種は、平成18年から麻しん風しん(MR)混合ワクチンによる2回接種が始まりました。さらに、平成20年から5年間限定で、中学1年生相当、高校3年生相当の方への接種が始まりました。現在の第2期から第4期の接種対象者は、4月以降は接種対象から外れてしまいます。接種機会を逃すことのないよう、早めの接種をお勧めします。

●混合ワクチンによる2回接種



- 第1期: 生後12カ月以上24カ月未満
- 第2期: 小学校入学前年度の1年間にあたる児童

●平成20年4月1日から平成25年3月31日までの5年間

- 第3期: 13歳となる日の属する年度
- 第4期*: 18歳となる日の属する年度



*なお、平成23年5月20日から平成24年3月31日までに
おいては、平成23年度に17歳となる日の属する者も含む。

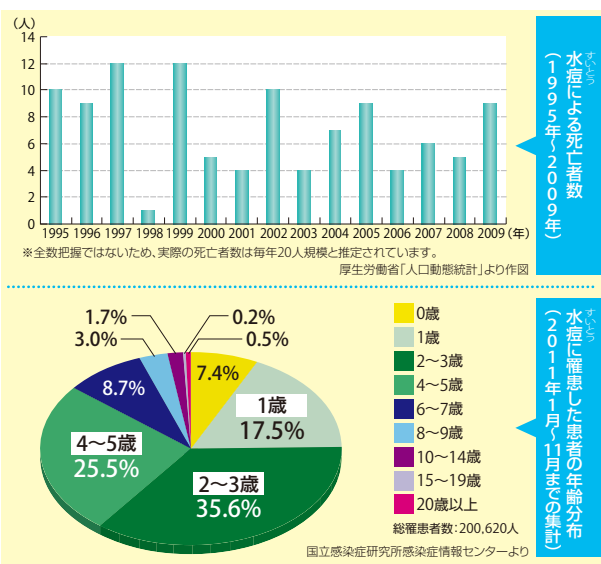
麻しんは命(いのち)定め

江戸時代には、「麻しんは命(いのち)定め」といわれました。麻しんにかかるとあけなく死亡することが非常に印象的であつたからです。治療法の進んだ現在でも、麻しんにかかると肺炎、中耳炎を合併しやすく、麻しん患者1000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

みずぼうそう流行は冬から夏

みずぼうそう(水痘)は、毎年12月から7月にかけて流行し、100万人以上がかかり、約4000人が重症

化、約20人が死亡しているといわれる病気です。また、子どもでは肺炎、熱性痙攣、細菌感染症などの合併症で入院することも多い病気です。水痘にかかった人を年齢別に集計すると、約80%は集団生活が始まる5歳までにかかっています。免疫のない子どもたちを水痘から守るために、集団生活を始める前に、水痘ワクチンの接種が勧められます。水痘にかかると、かゆみの強い水疱が全身に現われて、かきむしると傷口から細菌に感染し、一生、水痘のあとが残ることがあります。学校保健安全法施行規則ではすべての発しんがかさぶたになるまで感染力があるため、出席停止とされています。治るまでは外出は控えましょう。



みずぼうそうと予防接種

水痘ワクチンは、当初、免疫不全の子ども用に開発されました。その後、接種の対象者が広がり、現在では毎年多くの健康な子どもにも接種されるようになりました。水痘ワクチンは1回の接種により、水痘に対する十分な免疫(抗体)が獲得されます。その後の調査で、ワクチンを接種した人の10%から20%程度が水痘を

発症することがわかりました。しかし、この場合、症状は軽く、発しんの数も少なくて済みます。1歳を過ぎたら、なるべく早い時期に、水痘ワクチンを接種することが勧められています。MRワクチン1期接種が済んだら、1カ月以上間を空け、水痘ワクチンを接種しましょう。

かかるまえにできること、それは... 集団生活を始める前に、予防接種を済ませましょう。

【主な感染症がはやる季節】

月	春			夏			秋			冬			春			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
麻しん	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
風しん																
みずぼうそう																
おたふくかぜ																
インフルエンザ																
感染性胃腸炎(ロタ)																
感染性胃腸炎(ノロ)																
ヘルパンギーナ																
手足口病																
プール熱(咽頭結膜熱)																
溶連菌感染症																
突発性発しん																

一般的な流行時期をご紹介しますが、流行する時期は地域によって異なります。